

第359号

2019年
2月25日

月1回25日発行

げんぱつ

原発住民運動情報

発行所 原発問題住民運動全国連絡センター
 発行人 中村敏夫/1部300円 年間3,000円
 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13
 MMビルⅡ402
 TEL 03-5215-0577 FAX 03-5215-0578
 郵便振替 00150-7-355202
 ホームページ <http://genpatu.com/index.html>
 メール=genpatu-c@bizimo.jp

第32回全国総会・交流集会

日本の原子力政策は全面破綻!

「原発ゼロ」への国民との対話場面大きく広がる

原発問題住民運動全国連絡センターは二月三日、「サンピアン川崎(川崎市労働会館)で第三十二回全国総会・交流集会を開いた。伊東達也・筆頭代表委員が「代表委員会報告」を行った。

伊東氏は、今年一月の日立の原発輸出凍結により、安倍政権の「原発輸出」の総崩れとなったことから、日本の原子力政策が、第一回原子力長計(一九五六年)が始まって以来、六十二年を経てすべての分野で破綻したことを強調した。



代表委員会報告をする伊東筆頭代表委員

第32回全国総会・交流集会特別号

「3.11」の福島原発事故は日本の原子力政策の破綻の象徴的事

伊東氏は、これらの現実を、「原発ゼロ」への国民的対話の場面を大きく広げていることを指摘し、「原発ゼロ」の展望を語った。「討論」では、福島原発かながわ訴訟原告団長・村田弘氏のあいさつを含め十二人が発言。「代表委員会報告」、「討論のまとめ」

- 東電・電事連・規制委へ「申し入れ」と交渉(二面)
- 全国代表委員会報告(三・七面)
- 東電・電事連・規制委への「申し入れ」(七・十面)
- 福島を忘れない3.9全国集会(市民と野党の共同で原発ゼロ)日時 二月九日 13:00~14:15 (12:00開場予定・13:30オープニング)会場 東京・上野恩賜公園野外ステージ
- メインスピーカー 三上元氏(原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟 幹事、新潟市長)
- パネラー 二上三三氏(解散地・御徒町西町公園)
- 主催 原発をなくす全国連絡会

件だったが、事故後、原発の「新増設」「再稼働」「原発輸出」等の原発推進政策と、「再処理工場」「高速増殖炉もんじゅ」「高レベル廃棄物」等の核燃料サイクル政策のすべての分野で八方ふさがりが明らかになったことを指摘した。合わせて、原子力政策が日本社会、経済、エネルギーに大きな歪みをもたらしている現実を解明し、「いまこそ、『原発依存』を脱して再生可能エネルギーへの転換を求める声を大きく広げよう」と呼びかけた。

等々に示された基本認識を、参加者が共有することを確認した。全国総会・交流集会は次期代表委員等を選出した。次期全国交流集会開催地の鹿児島市の井上勝博代表委員が閉会あいさつ。「十月二十六日(土)は川内原発現地見学、二十七日(日)鹿児島市内で集会を予定。原住連三十二年の歴史で初めての開催となるので全国から多数の参加を」と訴えた。

警鐘

●第三十二回全国総会・交流集会は、日本の原子力開発史を俯瞰しながら、その全面的検討の

始まりの場となった●日本の原子力政策は、第一回「原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画(一九五六年「原子力長計」)から始まる。その原子力政策は、①原発推進政策と②核燃料サイクル政策の「二本柱」からなる●①は「再稼働」「再輸出」を主な内容とする。②は「再処理」「高速増殖炉」「高レベル放射性廃棄物」を主な内容とする。これらすべての分野で原子力政策は破綻した●その破綻の表れが、福島原発事故をはじめとする原発立地地域の危機的状況であり、東芝の破産危機をはじめとする日本経済の歪みであり、再生可能エネルギー開発抑制の歪みである●「原発依存」を抜本的に改め、再生可能エネルギーへの転換が求められる。「原発ゼロ」の国民的対話の場が大きく広がっている。

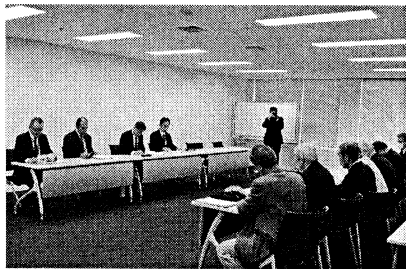
東電 電事連 規制委に「申し入れ」

第三十二回全国総会・交流集会に参加した当センター代表らは二月四日午前、東京電力、電気事業連合会、午後には参院議員会館で原子力規制委員会と、「申し入れ」にもとづいて交渉を行った。

東京電力

東電交渉は四日午前九時半から東電・幸ビルで行われた。あらかじめ提出していた「申し入れ」に対して、東京電力ホールディングス(株)・立地地域部 原子力センター各担当者が文書による回答を読み上げた。

「申し入れ」の各項目に対する回答は、社会的信頼性をかちえていない東電の「福島原子力事故調査報告書」の範囲内のもに終始し、「申し入れ」に対する



東京電力 (左側) との交渉

電気事業連合会

直截な回答を回避したものであった。交渉での指摘もあり、二点について回答の変更があったが、これも直截な回答ではなかった。(七〇八面参照)

交渉は四日午前十一時から経団連会館一階の狭い面会室で行われた。電事連広報課、原子力部秘書室関係者が対応。ここでも「原発依存」前提の抽象的回答に終始。参加者は、



電事連 (右側) との交渉

電事連が「もはや原発ビジネスは成り立たない」の認識を共有し、再生可能エネルギー開発のイニシアティブを発揮するときは、と指摘した。(八〇九面)

原子力規制委員会

規制委との

交渉は四日午後二時から参院議員会館で行われた。「申し入れ」項目にしたがって、規制側は各担当者がそれぞれ回答した。

当初、提出の「申し入れ」に再稼働原発の定期点検メンテナンスの延長問題が欠落していたことから、これへの規制委の回答を追加して求めた。



規制委 (向こう側) との交渉

規制委の回答も「申し入れ」に直接は答えられないもので、最後には、参加者は規制委に對しては、名は規制、実は推進の現状を改め、規制委に徹するよう求めた。(十面参照)

- △全国総会・交流集会の「討論」での発言者(敬称略)
- ① 女川原発再稼働の是非は県民投票で
 - ② 原発ゼロへの道を切り拓くために
 - ③ 福島県における原発再稼働阻止の運動
 - ④ 福島原発かながわ訴訟原告団長挨拶
 - ⑤ 新潟県の事故検証と運動の展望
 - ⑥ 国と東電が最優先する再稼働も原発事故
 - ⑦ 四国電力の定検間隔延長と規制委の態度
 - ⑧ 被災者・被災地の切り捨ての現状
 - ⑨ 放射能汚染廃棄物の焼却問題
 - ⑩ 東海原発の危険性と規制委の問題点
 - ⑪ 若者を福島現地視察に送り出す活動
 - ⑫ 高レベル・二廃棄物の保管の問題点
- 高野 博(宮城)
米谷道保(北海道)
林 広員(福井)
村田 弘
立石雅昭(新潟)
持田繁義(新潟)
和田 幸(愛媛)
早川篤雄(福島)
小林立雄(宮城)
小林栄次(茨城)
井上勝博(鹿児島)
谷崎嘉治(青森)

△新代表委員(敬称略)

○筆頭代表委員(幹事) 伊東達也(福島)

○代表委員(幹事)

- 早川篤雄(福島)
- 立石雅昭(新潟)
- 持田繁義(新潟)
- 柳町秀一(埼玉)

○代表委員

- 米谷道保(北海道)
- 谷崎嘉治(青森)
- 高野 博(宮城)
- 大川正治(群馬)
- 小林栄次(茨城)
- 野村存生(東京)
- 安部慎三(東京)
- 児玉一八(石川)
- 林 広員(福井)
- 唐沢裕史(静岡)
- 岡村哲志(静岡)
- 出馬益子(三重)
- 橋本武人(和歌山)
- 芹沢芳郎(大阪)
- 和田 幸(愛媛)
- 井上勝博(鹿児島)
- 山本幸一(全教)
- 福島功(自治労連)
- 木下興(民医連)

○名誉代表委員

- 藤巻泰男(新潟)
- 中村敏夫(茨城)